

KAJKIEMON XV

襲名十周年記念

十五代酒井田柿右衛門展



襲名十周年記念

十五代酒井田柿右衛門展

会期：二〇二四年九月十七日〔火〕～二十三日〔月祝振〕

各日 午前十時～午後八時

*九月十七日〔火〕は午後七時閉場 九月二十三日〔月祝振〕は午後五時閉場

会場：そごう千葉店七階Ⅱ美術画廊、アートスペース、ロイヤルルーム

ごあいさつ

このたび、そごう千葉店では「襲名十周年記念 十五代酒井田柿右衛門展」を開催させていただきます。運びとなりました。

柿右衛門窯は、約三百八十年の歴史と伝統を受け継いでおります。

一六四三年に初代柿右衛門が日本で初めて色絵磁器を完成させました。

後に、濁手と呼ばれる柔らかな乳白色の地肌に上絵付けされた優雅な作品は、マイセン窯など各地の名窯に大きな影響を与えました。

十五代酒井田柿右衛門先生は、その伝統や意匠を受け継ぎながら現代感覚も取り入れ、その業を継承されています。

本展では、現代的で新鮮な造形と創作意欲に溢れた濁手による作品六十余点を一堂に展覧いたします。

ぜひ、この機会にご高覧賜わりますよう、ご案内申しあげます。

二〇二四年 九月

そごう千葉店

ごあいさつ

柿右衛門の名を受け継ぎ、今年で十年の節目を迎えることができました。これもひとえに皆様の温かなご指導あつてのことと、深く御礼申し上げます。

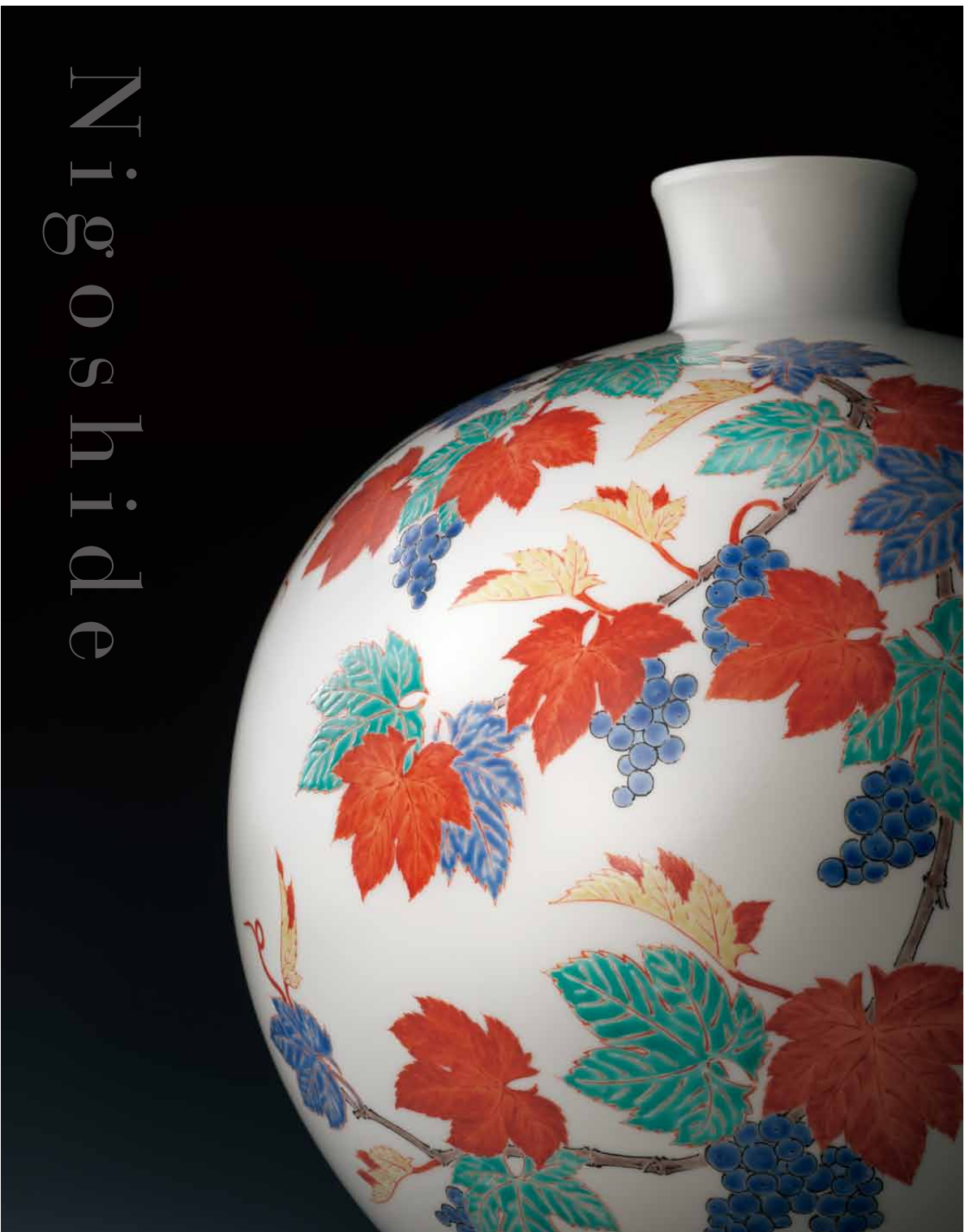
襲名当初は自分の作品制作に無我夢中で臨んでいくばかりでしたが、昨今は、次の世代にこの工房を引き継ぐためにはどうすべきか、窯の未来を考えながら作品づくりをするこゝとが増えて参りました。自分の任された時代の答えを模索し身の引き締まる思いを強く抱きつつも、私自身のマイペースな性格のお陰もあり、気負い過ぎず、時には広く緩やかな目で仕事を見つめることが出来つつあるように感じております。

まだまだ理想には届かない部分が多くありますが、次の節目に向け研鑽を積み、日々の作品づくりに励んで参る所存です。

この度、そごう千葉店様のご厚意により、お世話になることになりました。ご清鑑いただければ幸いに存じます。

令和六年 秋

十五代 酒井田柿右衛門



濁手

佐賀地方の方言で米の研ぎ汁のことを「にごし」と言います。

「濁手(にごしで)」は米の研ぎ汁のように温かみのある白色の地肌を持つ色絵磁器で柿右衛門窯独特のものであり、泉山陶石等を使用した特別な原料とその配合、及び独自の製法により作られております。一般的な白磁がやや青味を帯びているのに対し、濁手素地は柔らかい乳白色を呈しており、一六五〇年代に、柿右衛門の色絵が一番映える地肌を持つ素地として創り出されました。その後、この素地は改良を加えられ、いわゆる「柿右衛門様式」が確立される頃には、傷や歪みなどの少ない上質なものが作られるようになります。

この濁手作品のしっとりとした素地と余白を十分に生かした繊細で華やかな色絵との調和のとれた美しさは、その当時国内はもとより国外においても高く評価され、その作品は一六五九年に本格化するオランダ東インド会社(VOC)の輸出により広く東アジアやヨーロッパ等に紹介されていきます。

しかしこの濁手も貿易の終了と共に江戸中期頃一度途絶えてしまいました。それから長い間、濁手は作られておりませんでした。酒井田家に伝わる江戸時代の古文書を基に、苦勞の末十二代、十三代柿右衛門親子により復元されました。一九七一年にはその製陶技術が認められ国の重要無形文化財の総合指定を受けております。



1

濁手 莓文 壺

徑 31.0cm × 高 43.7cm



3 濁手 梅竹文 花瓶 径 21.0cm × 高 27.8cm



2 濁手 梅花文 壺 径 15.2cm × 高 35.0cm



5 濁手 苺文 花瓶 径 26.0cm × 高 33.0cm



4 濁手 椿文 花瓶 径 26.2cm × 高 33.2cm



7 濁手 葡萄文 瓶 径 26.4cm × 高 26.7cm



6 濁手 松文 花瓶 径 27.5cm × 高 21.3cm



9 濁手 葡萄文 瓶 径 27.0cm × 高 27.4cm



8 濁手 苺文 花器 径 22.2cm × 高 27.4cm



11 濁手 薔薇文 皿 径41.0cm × 高9.5cm



10 濁手 梅花文 鉢 径39.8cm × 高9.4cm



13 濁手 藤文 皿 径 30.8cm × 高 4.8cm



12 濁手 葡萄文 皿 径 31.0cm × 高 4.3cm



15 濁手 薔薇文 瓶 径 22.0cm × 高 23.0cm



14 濁手 苺文 花瓶 径 23.0cm × 高 18.3cm



17 濁手 梅花文 瓶 径 22.3cm × 高 22.4cm



16 濁手 竹文 水指 径 18.5cm × 高 18.0cm



20 濁手 団栗文 花器 (右) 径 17.5cm × 高 26.0cm

21 濁手 向日葵文 花器 (左) 径 15.0cm × 高 31.7cm



18 濁手 松文 花瓶 (右) 径 13.7cm × 高 25.3cm

19 濁手 椿文 花瓶 (左) 径 14.2cm × 高 25.4cm



24 濁手 唐梅文 香炉 (右) 径 11.5cm × 高 8.8cm

25 濁手 松文 香炉 (左) 径 9.2cm × 高 13.0cm



22 濁手 竹文 香炉 (右) 径 8.6cm × 高 11.5cm

23 濁手 梅花文 香炉 (左) 径 11.0cm × 高 12.0cm



28 濁手 松文 香炉 (右) 径 12.3cm × 奥行 8.0cm × 高 8.4cm

29 濁手 梅花文 香炉 (左) 径 9.3cm × 高 12.8cm



26 濁手 松文 香炉 (右) 径 6.8cm × 高 8.2cm

27 濁手 梅花文 香炉 (左) 径 9.3cm × 高 12.0cm



KAKIEMON XV

Profile

十五代 酒井柿右衛門 プロフィール

- 一九六八年 佐賀県有田町に生まれる。
 - 一九九一年 多摩美術大学絵画学科中退。
 - 一九九四年 十四代酒井柿右衛門に師事。
 - 二〇一〇年 第四十五回西部伝統工芸展にて初入選、
第五十七回日本伝統工芸展にて初入選。
 - 二〇一二年 有田陶芸協会会員となる。
 - 二〇一三年 国・重要無形文化財保持団体「柿右衛門製陶技術保存会」会長に就任。
日本工芸会正会員となる。
 - 二〇一四年 二月四日、十五代酒井柿右衛門襲名。
佐賀県陶芸協会会員となる。
 - 二〇一九年 日本陶芸美術協会会員となる。
- 現在 日本工芸会西部支部常任幹事、佐賀県陶芸協会副会長、
有田陶芸協会副会長、日本陶芸美術協会幹事。

酒井田柿右衛門家 年譜

- 一五七三(天正元年) 酒井田弥次郎(初代柿右衛門の父親)筑後地方(福岡県八女市酒井田)の領主の子として生まれる
- 一五八二(天正十年) 肥前(佐賀)龍造寺氏との戦いに敗れ人質として肥前白石郷に住す
- 一五九六(慶長元年) 酒井田弥次郎(四西)の子として喜三(右衛門(初代柿右衛門)生まれる
- 一六一六(元和二年) この頃 朝鮮陶工李參平 有田泉山に白磁鉢を発見 磁器焼成に成功
- 一六二六(寛永三年) 高原五郎七(豊臣秀吉御用焼物師)酒井田家へ四年間逗留・作陶を教える
- 一六二八(寛永五年) この頃 鍋島藩御用窯を有田岩谷川内に設ける
- 一六三五(寛永十二年) この頃 酒井田喜三(右衛門 白石郷より有田に移住か
- 一六四三(寛永二十年) この頃から初代柿右衛門 赤絵物の製作を始める
- 一六四七(正保四年) 初代柿右衛門 赤絵物を長崎にて売り始める
- 一六五一(慶安四年) 「徳川実紀」に將軍家光が「今利新陶の茶碗 皿御覧せられる」と記してある
- 一六五二(慶安五年) 京都鹿苑寺風林和尚の日記「隔冥記」に「今里之錦手鉢」をもらったことが記してある
- 一六五八(万治元年) この頃 初代柿右衛門 金銀の絵付に成功
- 一六五九(万治二年) オランダ東インド会社による日本磁器輸出本格化
- 一六六一(寛文元年) この頃 鍋島藩御用窯 柿右衛門窯のある南川原山に移る
- 一六六六(寛文六年) 初代柿右衛門 歿(七十一才)
- 一六七五(延宝三年) この頃 鍋島藩御用窯大川内山に移る
- 一六八五(貞享二年) 「貞享二年」銘の土型が酒井田家に伝世している(以後 明治までの土型 約八〇〇点が伝世している)
- 一六八八(元禄元年) イギリス バレーレイハウスの目録に各種有田磁器を記している
- 一六九〇(元禄三年) 酒井田家の秘伝書「土合帳 赤絵具覚(他見無用)」記される
- 一七一〇(宝永七年) この頃 ドイツ マイセン窯にて磁器の制作に成功
- 一七一三(正徳三年) 「和漢三才図絵」の中で柿右衛門を名工として記している
- 一七二五(享保十年) ドイツ マイセン窯にて色絵付けに成功 その後ヨーロッパ各地で柿右衛門写しが多く造られる
- 一七五七(宝暦七年) オランダ東インド会社の有田磁器輸出が打ち切られる
- 一八八五(明治十八年) 農商務卿西郷従道より初代柿右衛門の功績を追賞された
- 一九一二(大正元年) 十一世片岡仁左衛門「名工柿右衛門」歌舞伎座にて初演
- 一九一七(大正六年) 十一代柿右衛門 歿(七十三才)
- 一九二二(大正十一年) 尋常小学校国語読本巻十に「陶工柿右衛門」掲載される
- 一九五三(昭和二十年) 十二代柿右衛門 洪雄(十三代)親子によって濁手素地の復元に成功する
- 一九六三(昭和三十八年) 十二代柿右衛門 歿(八十六才)
- 一九七一(昭和四十六年) 「濁手」が国の重要無形文化財総合指定を受ける
- 二〇〇一(平成十三年) 十四代柿右衛門 色絵磁器の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される
- 二〇一四(平成二十六年) 二月四日 十五代酒井田柿右衛門を襲名

襲名十周年記念

十五代 酒井田柿右衛門展

会期 二〇二四年九月十七日〔火〕―二十三日〔月・祝振〕

各日 午前十時〜午後八時

*九月十七日〔火〕は午後七時閉場 九月二十三日〔月祝振〕は午後五時閉場

会場 そごう千葉店七階

※ 美術画廊、アールスペース、ロイヤルルーム

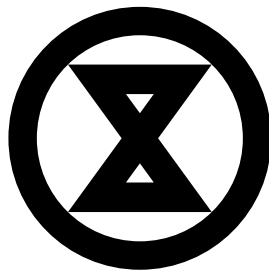
発行 そごう千葉店

撮影 山崎信一(株式会社スタジオオパッション)

木寺一路 (FU photo&design) [ポーターメント]

デザイン 酒井田成之 (sakaida design office)

印刷 大同印刷株式会社



SOGO

千葉

電話 043(245)2111 大代表
www.sogo-gogo.com